

牛久：学校周辺に見る自然

第16号 牛久自然観察の森，水戸市

2015年11月28日発行

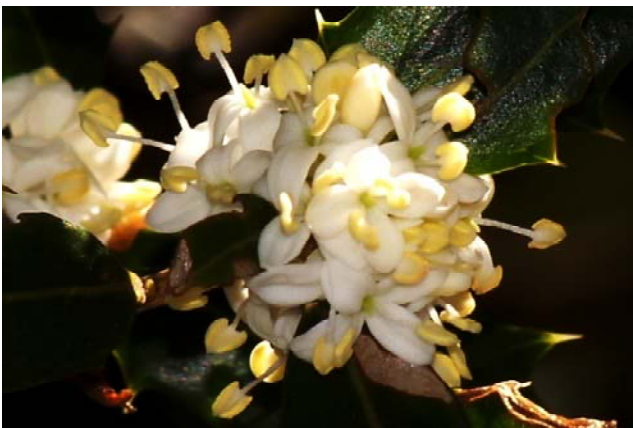
< 初冬の花、ヒイラギ >

みなさん、こんにちは。今回も、晩秋から冬にかけて咲く花で、ヒイラギです。



初冬の花、ヒイラギ。節分でもおなじみですが、ほのかに香る、かわいい白い花が咲きます。2013.11.24 水戸市

ヒイラギは節分でも使われるので、このトゲトゲの葉は見たことがあるでしょう。でも葉があまりに特ちょうあるからでしょうか、花を見たという人は少ないようです。ちょうど今ごろ、秋の終わりにから冬にかけて咲いていますから、探してみましょ。キンモクセイなどと同じモクセイ科の仲間、あれほど強くはありませんが、ほのかに似たような香りがします。



ヒイラギの雄花（左：雄しべはあるが、雌しべは発達しない。2013.11.24 水戸市）と、両性花（右：雄しべも雌しべも発達する。2015.11.19 牛久自然観察の森）。

そしてじっくり観察すると、雄しべだけの花と雌しべもそろっている花があり、それらは同じ1本の木にはついていないことに気がつきます。つまり雄花（雄しべしかない花）だけの木と、両性花（雄しべも雌しべも発達する花）だけの木があるということです。もちろん、雄花の方は咲いても実できません。が、両性花に花粉を送ることはできます。



年をとったヒイラギの葉は、ふちのトゲトゲがなくなり、丸くなる。 2013. 11. 29 牛久自然観察の森

さらに、今度は葉に注目してみましょう。同じヒイラギなのに、年とった木ではふちのトゲトゲがなかったり、目立たなかったりします。同じ1本の木の中でも違いが見られ、トゲトゲの葉の多い枝とふちの丸い葉の多い枝があったりします。人間も年をとると丸くなると言いますが、どうでしょう。

ついでに、葉のつき方にも注目です。植物の葉は、茎に互い違いにつくものや、対になって着くもの、3枚以上が輪になって着くものなどがありますが、ヒイラギはどうでしょう？



ヒイラギの葉は、対になって茎に着く。例). ①と①'、②と②'、③と③'。そして花の集まりは、葉に抱かれるようにそのつけ根から出る。

そう、左の写真でも分かるように、対になって着きます。これを知っていると、クリスマスに赤い実がついて飾られるセイウヒイラギは、葉が互い違いにつくのでヒイラギとは全く別の植物(モチノキ科の仲間)だということが分かります。そしてさらに観察すると、花は葉に抱かれるように、そのつけ根についていることも分かりますね。じっくり、じっくり観察しましょう。 【理科支援員：宮内】